



いつも全力！大切な宗像のために。
議員活動報告書

JR赤間駅周辺
の活性化策について
防災について
一般質問

あの提案はどうなった？
ポテンシャル・ゼロ
カーボンシヤル・ゼロ
高校生大学生イン
ターン
あの要望はどうなった？
急がれる釣川整備
ひまわり&コスモス
プロジェクト、始動！

アベマガ 2022年6月議会号

？あの提案はどうなった？

●ポテンシャル・ゼロカーボン

2016年3月議会一般質問において、全ての公共施設を対象とした消費電力の抑制や発電によるランニングコスト削減策、デマンド監視設定装置やピークカットの導入を検討してはどうかと提案していました。また、市内の河川、ダムなどの小水力発電やため池でのフラット型太陽光発電の可能性調査を求め、当時執行部からは新たな技術など常に情報を取り入れることの必要性を認める答弁を引き出していました。そして、2021年9月議会一般質問において、「ゼロカーボンシティ宣言」含め、脱炭素推進の視点から専門部署設置、公共施設への太陽光パネル、蓄電池設置の検討を行うことを提案していました。同年10月に宣言がなされ、本年4月には「脱炭素社会推進室」が設置され、迅速・計画的に具体的な実行に移し、本市のゼロカーボンへの取り組みを加速させていくことを目的として、**再生可能エネルギー設備導入にかかるポテンシャル調査業務の公募**が行われました。（具体的にどのような施設、立地に再生可能エネルギー設備の導入が可能か、調査を行うものです。）



↑YouTubeより

●高校生大学生インターン

2021年3月議会一般質問において、市役所やコミュニティ・センター等の公共施設で、行政やまちづくりに興味のある高校生や大学生などの若者をインターンとして受け入れる事で、学生のスキルアップ、本市への就職希望のきっかけづくり、職員など関わった大人の活性化が期待できると思い提案をしていました。（宗像市のワクワクWORKの高校生、大学生版というイメージです）当時宗像市では「インターンを受け入れてほしい」という依頼があった場合にのみ受け入れるかどうかを判断している状況でしたので、『**市の方から市内の高校生大学生に呼びかけてはどうか？**』と問いました。※宗像市議会録画配信でご覧いただけます 執行部からは『**地域の若者を受け入れるということが育成という観点での地域貢献であると捉え市内の高校、大学へ呼びかける検討をします。**』との回答をいただきました。今回の宗像市の取り組みは高校生など若い有権者への選挙啓発、市民全体への選挙広報にもつながるのではないかと期待しています。機会を創っていただいた関係者のご尽力に心より感謝いたします。そしてなんと娘がこの企画に応募していたことを知りました。自ら申し込み面接も受け、広報誌の表紙にも載っていました！率直に嬉しいです。



↑むなかたタウンプレスより

？あの要望はどうなった？

●急がれる釣川整備

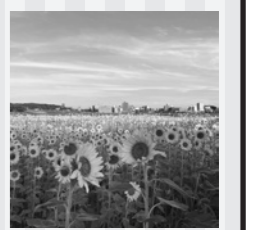
2019年当時、建設産業常任委員長として赤間地区、赤間西地区、河東地区区長会からご案内を受け執行部と釣川に関する防災問題についての協議の場に委員会議員と共に同席させていただき、釣川の課題について情報共有をいたしました。また、その時の協議内容を踏まえ、2020年の議会一般質問に釣川の護岸整備について取り上げ、よりいっそう県への働きかけをして欲しいと要望を行いました。本年6月、釣川整備のその後の進捗について、井上正文県議を通じ河川管理者である福岡県土整備部に確認をしていただいたところ、**一部の釣川護岸において当初の予定を前倒しして、今年度から整備工事を行っていただける**とのご報告を7月に同事務所からいただくことができました。釣川護岸の老朽化対策はとても重要ですので、今後も井上県議はじめ様々な方々のお力添えを賜りながら少しでも改善が進むように頑張ります。



↑改修が急がれる釣川の護岸の様子

ひまわり&コスモスプロジェクト、始動！

耕作放棄地を地域の方々の癒しに、蜜蜂の活動域にするためのチャレンジで今年も無事に成功。ただしこのままでは持続可能とは言えません。来年からはひまわりのオーナー様や、企業スポンサー様や草刈りボランティアを募ったり、咲いたひまわりを売って管理費に充てる試みを始めたいと思います。と、考えていましたが…秋のコスモスについて早速始動しました！7月14日に試験的にSNSを通じてコスモス畑のオーナーを一口100円（1人100円まで）で募集したところ、大きな反響を得まして、2日後には100人を超える方々から参加申し込みがあり、コスモスの種の購入費の一部に充てる事が出来ました。あくまでも「オーナーの1人である！」と名乗れる（名乗るだけです）特典しかないのですが、多くの方々の共感を得ることが出来てとても嬉しく思います。独りで草刈りしている時も100人を超えるオーナーの皆様の事を考えてモチベーションが爆上がりです。10月中旬ごろにきれいなコスモスが咲くように草刈り頑張ります。



編集後記

安倍晋三元首相が卑劣な凶弾に倒れ、我が国は深い哀しみに包まれました。昨年、安倍元首相は昭恵夫人とともに、宗像大島を訪れ安倍家のルーツとされる「安倍宗任」の墓参りをされておられます。日々激務に追われる中で、ご先祖様、島民たちとの交流は心が安らぐ瞬間だったのではないかと思います。安倍宗任の墓前で手を合わせる安倍元首相のお姿を想像しつつ、私も手を合わせました。心よりご冥福をお祈りいたします。



あべ よしひで 安部 芳英



1970年宗像に生まれ、宗像で育つ。
学歴：赤間小学校 → 城山中学校 → 香椎工業高(情報科) → 福岡建設専門学校

宗像市議会議員

- 宗像大社氏子青年会 監事
- 遠賀・宗像食品衛生協会相談役
- (公社)福岡県建築士会防災部会副部長兼宗像地域会前副代表
- 婚活まちづくり団体ゆめみらいNIPPON元代表
- 青少年育成活動 宗像少年の翼前会長
- 城山中学校PTA会長(2018)
- アドベンチャーMUNAKATA2020実行委員会顧問

これまで関わってきた祭りイベント

- 赤間駅前カムカム祭り実行委員会
- 夢灯籠祭り実行委員会
- ゆめタウン宗像夏祭り実行委員会
- 宗像まちづくり映画上映実行委員会



教えてよっちゃんネル 議員インターンシップに参加した学生3人組にインタビュー。

防災について



2012年12月議会において、災害復旧ボランティアを募る仕組みの必要性について質問した。当時の執行部からは「社会福祉協議会と連携し、災害時にボランティアを募集し受け入れる仕組みを既につくっている」との答弁があった。資料要求によると2016年7月に社会福祉協議会と「**災害時におけるボランティア活動に関する協定書**」を交わし、2020年11月に「**宗像市災害ボランティアセンター設置運営マニュアル**」を、2021年4月に**宗像市災害時受援計画**を策定していることが明らかとなった。あれから10年、仕組みやマニュアルは整備されたが、実際に災害が発生した場合、災害対応や復旧を円滑に行うことができる状態なのか。

災害ボランティアセンターの運営については協議を始めたばかりの段階なので、鋭意取り組みたい。



要望 2012年に行った質問に対して、本市はまだ準備段階、未達成状況であるということ指摘したうえで、一刻も早く実際に発災した時に災害対応や復旧を円滑に行えるようにしてほしいと強く要望しました。



避難行動要支援者の個別避難について、移動時間や移動負担を鑑み、住居の近所にある公民館を避難所として開設することが有効であるとの認識を執行部と共有したうえで、課題の一つである「運営者」について、対住民業務経験のない職員が行うよりも地元住民の意向があれば、あらかじめ住民との間で市民協働化提案制度（人件費を支払う）による**避難所運営の連携を模索**することも選択肢になりえるのではないかと問いました。

他市の先進事例など公民館の活用方法の研究をしたい。



ため池の低水位管理は防災上有効なため、余水吐スリットの設置が検討できないか。その場合、地元負担10%負担が発生しないような制度が考えられないか。

農業者と協議し、防災面での協力をさせていただくという意味で地元負担が発生しないように検討したい。



ため池の管理者である農家には担い手不足や高齢化の課題がある。そして近年の豪雨災害で調整池やため池の機能がより重要視される中で、**貯水量の維持、浚渫状況の把握、履歴管理を徹底することは市民の安全につながる**と考える。ため池についての洪水調整機能は国も認め浚渫や改修の補助を行っている状況である。調整池と同じように、**一定の条件を満たしたため池について、その管理浚渫を本市が行うことは効果的な防災対策となる**と考える。

本市では、2003年に施行された『宗像市ため池の保全に関する条例』があるが、2003年当時のこの条例は水源を守る視点が主だったが、ため池を取り巻く環境は変化してきており、

- ・近年の豪雨災害でのため池の洪水調整機能の価値や、農家の減少による、ため池の管理組織の人材不足や高齢化も課題

- ・開発などで水田が減少したことによって、そのため池の必要性自体が低下しているケースもある

このように様々な観点から、**ため池の保安全管理の在り方について、今一度整理する時期が来ている**と考える。条例の見直しを提案するがどうか。

農家の現状は認識している。他の法令など確認する。



Website



Facebook



YouTube



Instagram



twitter



安部よしひでの最新情報を各 SNS にて発信しています。

JR赤間駅周辺の活性化施策について



1日の乗降客が1万8千人を超える本市の玄関口である赤間駅周辺では、近年、個人経営による様々なジャンルの飲食店が増えている。出店に至った飲食店の中には、ある洋食店主の人脈（NPO法人博多ミラベル21）により、福岡市内にある著名な飲食店が出店したケースもあると聞いた。そこで、以下質問する。

- ①このような飲食店同士のネットワークを活用し、**店舗誘導を図る**ことができないか。
- ②昨年、赤間駅周辺の飲食店を中心とする市内11店舗オテルグレイジュ、ロイヤルホテル宗像、キュイジージュ・インダ、イタリアンのジェルモーリオ、沖縄料理うみそら、ビストロ・イシヅ、炭火炭美 善、ミツ・ダルピーヌ、イル・ブッフ、カフェ・オフコース、ランコントル（内9店舗は個人経営）がカナダ政府やケベック州と連携し「**オマールフェスタ**」を開催し、赤間駅周辺の魅力向上と活性化に貢献している。オマール海老は本市の水産物ではないが、コース料理で本市の農水産品と一緒に使うのに相性が良く、また、ワインや日本酒、ビールとも合うので消費拡大と経済循環に貢献できると考える。このような「オマールフェスタ」の取組に行政も関わることによって、**飲食店の後押しを**することができないか。
- ③赤間駅周辺を美食スポット、おしゃれな界隈として**市内外に広く情報発信**ができないか。
- ④「駅周辺のイベント」について、**JR九州等と連携**を図れないか。
- ⑤県やJA漁協と連携し、**地元飲食店と地元生産者とのマッチングの機会**をつくれぬか。
- ⑥現在市が進めている、福岡市内飲食店との連携に関しては、補助金がなくなった場合の事や、誰が売り誰が運ぶのか？ など様々な課題がある、**地域総合商社的な発想が必要**ではないか？

- ①異業種交流会やビジネス交流会を推進する。
- ②民間商社事業なので難しい。
- ③事業者がまとめて活動する場合は何らかの検討をしたい。
- ④市内事業者がまとめて行う場合はイベントの内容などを協議したうえで検討したい。
- ⑤5月に行った食のイベント実績を踏まえ、秋以降の食のイベントに反映させたい。
- ⑥必要性を認識している。今後検討する。



要望 ②について、今年は全国展開しているが、福岡特に宗像の飲食店が市内に広げてくれている。11店舗が協力して展開している実績を確認して欲しい。



駅北口の防災用空き地としての広場（都市公園）は、6,000万円の資産価値があるが、平常時はあまり活用されていない。郊外の公園であればまだ優先順位は低いと思うが、赤間駅は本市の玄関口であり、中心拠点として好立地であることから、より相応しいものとなるように創意工夫し、また、**行財政改革の視点から遊休地で稼ぐ事業、経済活性化視点から賑わい創出事業の場としても有効活用を図る必要がある**と考える。そこで、当該広場の利活用、機能充実や管理運営手法等について、市民や企業を対象に**プロポーザル方式による公募**を行ってはどうか。

地元団体などから声が出た場合は、協議していきたい。



要望 声の有る無しに関わらず、土地の利活用を考えて欲しい。赤間駅周辺の住民の意向も事前に伺ったうえで、市民から選ばれた市議として議会で取り上げている。



南口ロータリーについては雨天時の送迎車両の混雑時にはロータリー内や駐車場が一杯になり一時的とはいえ、タクシーやバスの通行にも支障があるように感じている。南口ロータリーの駐車場の再整備、植栽デザインの変更を行うことで、**駐車台数の増加及び送迎車両による混雑が緩和できる**と考えるが、検討できないか。



混雑の認識はないが、まずは現状の確認を行う。



要望 市の顔と言える赤間駅ロータリーの安全性、利便性の向上のために確認されたいし、また電灯や階段のフットライト、公衆トイレなどの状況確認もして、改善可能なところは改善してほしい。